

しらさぎ24訪問介護看護ステーション
第2期 第1回 介護・医療連携推進会議 報告書

開催日時	平成28年 9月15日(木) 18:30~20:00									
出席者 (14)名	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者(一)名 ◆利用者家族(一)名 ◆地域住民代表(一)名 ◆民生児童委員(1)名 ◆医師(1)名 ◆地域包括支援センター(2)名 ◆連携訪問看護(3) ◆医療保険での訪問看護(一)名 ◆中野区介護サービス事業所連絡会 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護部門(1)名 ・介護支援専門員部門(1)名 ◆事業所職員(5)名 									
討議期間	平成28年 6月11日 ~ 平成28年 9月10日									
利用状況 (平成28年 9月10日現在)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>現在利用者数 (17)名</td> <td colspan="2">延べ利用者数 (28)名</td> </tr> <tr> <td>要介護1…6名</td> <td>要介護2…5名</td> <td>要介護3…3名</td> </tr> <tr> <td>要介護4…2名</td> <td>要介護5…1名</td> <td>申請中…0名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用開始…2件 ・利用終了…2件 ・一体型訪問看護利用…3件 ・連携型訪問看護利用…5件 (医療保険での訪問看護…1件) 	現在利用者数 (17)名	延べ利用者数 (28)名		要介護1…6名	要介護2…5名	要介護3…3名	要介護4…2名	要介護5…1名	申請中…0名
現在利用者数 (17)名	延べ利用者数 (28)名									
要介護1…6名	要介護2…5名	要介護3…3名								
要介護4…2名	要介護5…1名	申請中…0名								
(1) 報告事項 質疑応答、要望、助言等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、団塊の世代の高齢化に伴って利用者のライフスタイルも多様化し、夜型人間の増加等で本事業の需要増が見込まれるのではないかと。 →可能性は多分にあるが、夜間の対応のみが求められる可能性もある。今現在も夜間のみというニーズがあることも踏まえ、職員兼務で夜間対応型訪問介護事業所を併設すれば、収益増加、経営安定化につながると考えている。 ・業務委託を開始した時にどのようなメリット、デメリットが考えられるか。 →メリット、デメリットは多々あると考えている。分かりやすい例としては <p style="margin-left: 20px;">メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 人員増により訪問可能な利用者数が増加する。 b. 利用者が馴染みの介護者によるサービスを継続できる可能性がある。 c. 固有職員の訪問時間が減少することでできる時間を使い、営業活動、スキルアップ、同行訪問、事務処理等、他の業務を行うことができる。 <p style="margin-left: 20px;">デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 情報伝達、共有がスピード、精度、密度等全てにおいて難しくなる。 b. 提供するサービスの均質化が難しくなる。 <p>といったことが考えられる。業務委託は厚労省も認めている事業展開の方法であり、事業拡大につなげることが期待でき、実際に成功(業績UP)例もある。ただし、成功事例はいずれも行政のバックアップや周知がしっかりしている自治体なので、しらさぎ24でもより積極的に区への働きかけを行う必要がある。また、受託側から見れば直接の介護保険業務ではないので、しっかりと指導や確認をしないと委託側にとっては様々なリスクや負担を抱え込むことになりかねないが、クラウドシステムの利点とメリットcを活かすことで解消できると考える。委託が軌道に乗ってからは、委託割合による収支バランスも意識しなければならない。</p>									

しらさぎ24訪問介護看護ステーション
第2期 第1回 介護・医療連携推進会議 報告書

	<ul style="list-style-type: none">・特に在宅において、医療は介護との連携が必須だと気付きはじめているので、クラウドシステムでの情報共有のメリットは大きいと思う。ただし、医師は忙しくなると確認や更新が滞りがちになるのが難点ではある。 ・団地で多数の利用があれば、狭い範囲で効率的な訪問ができるのではないかと。 →団地、住宅街はそれぞれに開発の歴史のようなものがあることが多い。多くの団地では高齢化が進んでおり、潜在的な介護の需要はあるはずだが、一斉に開発されて同時期に同世代が入居した結果、内部でお互いに気にかけて、助け合う関係ができてコミュニティとして良好に機能しているケースもあり、イメージするほど利用や依頼が無いことが多い。ただし、連鎖的に利用につながる可能性もある。
(2)苦情、意見等 0件	
(3)事故 2件	<ul style="list-style-type: none">・遅参 1件 (90分遅れ)・物損 1件
(4)その他	<ul style="list-style-type: none">・第2期委員の皆様との最初の会議となります。新任の方、再任の方がいらっしゃいますが、これからの2年間ご協力お願いいたします。・今年度も自己評価・外部評価を実施します。委員各位のご協力をお願いいたします。
次回開催予定	<ul style="list-style-type: none">・平成28年12月中旬